

## ラグビーワールドカップ2019™

# 県内開催を成功へ導く

スポーツの普及や交流などを通じて、県民幸福度の最大化を目指す静岡県は「スポーツ王国しずおか」を合言葉に、アスリートの育成やスポーツ人口の増進に積極的に取り組んでいる。今回はラグビーワールドカップ2019に備え、県内のラグビー人気の高揚に向けた取り組みを紹介する。



TM © Rugby World Cup Limited 2015

### エコパで日本代表戦

昨年11月、ラグビーワールドカップ2019の試合日程が発表され、本県の小笠山総合運動公園エコパスタジアム(袋井市)では、日本代表とアイルランド代表が対戦することに決まった。全国12都市に会場がある中、日本代表の試合が地元開催と重なったことに、県内の関係者とファンは喜びに湧いた。ラグビーワールドカップ2019静岡県開催推進委員会で特別アドバイザーを務めるラグビーU18日本代表監督の星野明宏さんも「日本代表の試合を地元で観戦できるのは夢のような話。だから、今回の決定を幸運と言いますが、その背



昨年6月に行われた、日本代表対アイルランド代表戦。27,000人を超える観客がラグビーの迫力を目の当たりにした。

景には、関係者とファンが積み重ねてきた努力があったと私は思います」と語っている。

### 楽しさを伝えて機運醸成

本県は、県内開催を成功へ導くため、全県レベルの機運醸成に取り組んでいる。例えば、昨年6月にエコパスタジアムで行われた日本代表対アイルランド代表戦では、県民総ぐるみの団体観戦プロジェクトや、小中高生等に対する観戦機会の提供、伊豆・東部地域からの低廉なバスツアーの催行などの取り組みによって、日本代表のテストマッチとしては過去4番目に多い観客数27381人で会場を盛り上げた。また、ラグビートップ

### ラグビーワールドカップ2019™ 本県開催の4試合

9/28 土 16:15~	日本	v	アイルランド
10/4 金 18:45~	南アフリカ	v	イタリア
10/9 水 16:15~	スコットランド	v	ヨーロッパ地区代表*
10/11 金 19:15~	オーストラリア	v	ジョージア

\*ルーマニア、ロシア、スペイン、ベルギー、ドイツのうち1国

リーグや大学対抗戦、女子7人制ラグビー大会など、ハイレベルな試合の観戦を勧め、県民のラグビーに対する関心を喚起している。

機運醸成は、試合の観戦を勧奨するだけでなくとどまらない。県内の小学生を対象にした「タグラグビー教室」や、小学校の教員等を対象とした「タグラグビー指導者養成講習会」を県内各地区で実施したほか、日本代表戦のパブリックビューイングを開催するなど、ラグビーの楽しさを知ってもらう試みにも取り組んでいる。

静岡産業大学や静岡理工科大学など県内大学と連携した「ラグビー広め隊」「ラ☆ガール」事業では、若い女性をターゲットに情報誌や映像での発信、エコパ周辺の飲食店とのメニュー開発等により、大学生の視点から魅力を伝えている。

会場のある袋井市は受け入れ態勢の構築に力を入れる。大会期間中に訪日客の案内や民泊の受け入れを行うため、留学生などを招いた「ホームステイトライアル」を通して経験を積んでいる。こうした経験は、開催後も財産と

して残るだろう。

### 認知度を高める秘策

県内開催の認知度を高め、全県レベルの盛り上げを図るため、本県は、浜松市出身の百田夏菜子さん(ももいろクローバーZ)にラグビーワールドカップ2019開催都市特別サポーター(静岡)を委嘱した。地元ヤマハ発動機ジュビロのホームゲームに合わせて委嘱式を行い、本人のオフィシャルブログ等でも取り上げてもらうとともに、百田さんが出演する告知動画やポスター、オリジナルグッズなどを活用して機運醸成につなげる考えだ。今後はラグビーになじみの薄い層への情報発信が重要になるだけに、百田さんに対する期待は大きい。本県は今後、来場者の交通輸送計画やファンゾーンの運営計画策定、会場の整備等を進めながら、引き続き機運醸成に力を入れていく。5月には大会開催500日前イベント、9月・11月には1年前イベントも開催予定だ。ラグビーワールドカップ2019は、いよいよカウントダウンの段階を迎えている。



「ラグビーは無差別級の陣地取り合戦。シンプルに考えれば、ルールは後回しでも十分に楽しめます」と語る星野さん。

### Profile

1973年東京都生まれ。桐蔭学園高等学校から立命館大学へ進学。大学卒業後に大手広告会社勤務。その後、筑波大学大学院でコーチングを学ぶ。2007年に静岡聖光学院高校ラグビー部の監督に就任し、3年で創部史上初の全国大会出場。現在は、同中学校・高等学校副校長。2017年にラグビーU18日本代表監督就任。

「ラグビーワールドカップで日本のラグビー人気が高まるのは間違いありません。ただ、大会を単なるイベントで終わらせてしまうと、国内にラグビーは根付かないでしょう。大切なのは、大会後も継続して魅力を伝えること。そして若い選手たちの活躍です。私は、そんな視点を持ってU18の選手と接しています。日本にラグビーのカルチャーが浸透すれば、多様性のある、誰もが活躍できる社会を築いていくきっかけづくりを担えると思います。イベントをカルチャーに発展させ、その精神をレガシーとして残す。ラグビーにはそれだけの魅力と価値があると私は信じています」。

現在、ラグビーU18日本代表監督を務める星野さんは、ラグビーワールドカップ2019の開催を心待ちにしている一人だ。

監督就任からわずか3年。しかも、週3日、1日最大で90分という限られた生活環境にもかかわらず、静岡聖光学院高校ラグビー部を創部史上初の全国大会出場へ導いた星野明宏さん。その背景には、「90分しかない」ではなく「90分もある」という逆転の発想とともに、1秒も無駄にしない練習メニューや生徒の自主練習を促す意識改革があった。

星野さんの発想は、少年期から培われたものだ。「私は、子供



日本ラグビーフットボール協会提供

## Pick up Athlete 03

アスリート  
星野明宏さん

ラグビーU18日本代表監督

ラグビーには人と社会を育てる力があります。